

【上荻野小学校】説明会における質問・意見等の概要

1 参加人数

日にち	会場	時間	参加人数
令和4年11月23日(水・祝)	上荻野小学校体育館	10時～	35人
		14時～	17人
		17時～	6人
		合計	58人

2 意見提出用紙による意見等提出件数

提出件数	4件
------	----

3 質問・意見の概要

○…質問 ●…意見・要望 △…説明会后、意見提出用紙等で提出された質問等

→…質問に対する回答

※同趣旨の質問や意見については、とりまとめて記載しています。

※「質問」については、市の回答を併せて記載しています。「意見・要望」及び「説明会后、意見提出用紙等で提出された質問等」については、今後の取組の参考とさせていただき、市の回答は記載していません。

【質問】

(取組の考え方・進め方・スケジュール)

○ 今回の取組において、公共施設の更新・維持管理費用が足りない点も大きな課題となっているとの説明があったが、財源が十分あれば、統廃合はやらないのか。

→ 今回の取組については、あくまでも本市における将来にわたる教育の在り方を検討するために開始したものとします。そして教育の在り方を検討するに当たっては、教育環境維持の観点から施設の更新・維持管理や教職員の負担軽減の課題、地域コミュニティとの関係性について検討していく必要があるものと考え、お示ししているものであり、市の財源確保のためにこの取組を実施するものではありません。

○ 仮に統廃合する場合、どの学校に統合するのか。ある程度は想定しているのではないのか。

→ 教育委員会では統廃合を含めた全ての方策について検討をしております

が、現時点ではどの方策を実施するかは全く決まっています。

御意見をいただきました学校の統廃合も一つの方策になりますので、様々なパターンを想定し、検討もしています。1校に統合なのか、2校に統合なのか、又は、他の方策を講じて3校をそのまま維持するのか。どの方策にもメリット・デメリットがあることから、様々な観点から整理を進めているところです。その上で、アンケート調査等で皆様の学校規模適正化に対するお考えを伺った上で、市として方策の方向性を整理していきたいと考えています。

○ 統合する場合でも、しない場合でも、どちらにもメリット、デメリットがあることは分かる。それらの検討に当たっては大人だけの話し合いで進めるのではなく、子どもの意見を聞いていくべきである。子どもの気持ちを検討にどう反映させていくのか考えを聞きたい。

→ 教育委員会でも子どもたちの気持ちは重要だと考えておりますが、方向性が定まっていないうちで子どもたちに意見を求めると、いたずらに不安や期待を煽ってしまうのではないかと懸念しています。そうしたことから、現時点では、ある程度方策の方向性が決まった段階で、改めて子どもたちの将来への希望や気持ちを聞いていきたいと考えています。

○ 本日の説明会の内容がかなり漠然としたもので、提示された課題等について具体的にどのような考え方で対策するのか分からなかった。アンケート調査後の意見交換会では市の考えが示されるとの認識でよいか。

→ 本日の説明会では、市の取組の基本的な考え方や各地域の学校の現状等を御案内させていただくものであり、具体的な方策等については、本日の説明会での御意見や今後実施予定のアンケート調査で皆様のお考えをお聴きした上で、市として具体的な方策を提案させていただきたいと考えています。

○ 来年実施するアンケートについては、どのような人を対象にどのような内容で実施するつもりなのか。

→ アンケートについては、具体的な内容を現在検討しているところですが、対象については、統廃合を含めた方策を検討する学校等の児童・生徒及びその通学区域にお住まいの未就学児の保護者や学校が立地する地域の住民の皆様を予定しています。アンケートの内容については、保護者の皆様には学校規模適正化に当たって重視する点や学校の立地場所等の考え方を、地域の皆様には地域における学校の在り方や仮に学校が無くなった場合における地域への影響などについてお伺いすることを予定しております。

○ 今後の取組のスケジュールについて、市の具体的な方策は、いつ頃保護者や地域住民に提示されるのか。

→ 市の具体的な方策については、来年6～7月頃に予定している意見交換会前までに提示させていただく予定です。意見交換会では市が提示した方策について御意見をいただきたいと思いますと考えています。

○ 学校規模の小規模化に伴う学校統廃合については、全国的な課題なのではないかと思うが、他の自治体での実施例などで知っているものがあれば教えてもらいたい。また、今回の取組に当たってはそれらの事例を参考にした上で取り組んでいるものなのか。

→ 御意見のとおり、学校規模適正化の取組として、学校の統廃合や小規模特認校制度の導入など先行事例は他の自治体でも数多くあります。神奈川県内においても多数の事例があり、近年では相模原市や南足柄市、山北町などで小学校が統合した事例がございます。

他自治体の事例については、今回の方針策定時に様々な自治体の事例や同様の方針等も参考にしつつ、検討した経緯があります。

○ 子どもが2年後に上荻野小学校に入学する予定だが、説明で提示されたスケジュールだと、子どもが在校中に統合する可能性がある。仮に統合して新たな学校に通学することになった場合などは、何かしらの配慮はないのか。

→ 通学区域の変更を含む方策の実施に当たっては、実施時期も含めて、地元の検討組織等で保護者や地域の皆様の御意見を伺いつつ、十分な準備期間を設ける必要があると考えています。仮に統廃合等の方策を実施するとなると、どのタイミングで実施しても影響を受けてしまう方が出ることは免れないので、例えば、統廃合を実施するのであれば、統合前から将来の統合先の学校に通うことができるようにしたり、既に入學しているお子様については、卒業するまで同じ学校に通えるようにするなど、環境の変化に対する緩和策等について検討を進めていきたいと考えています。

○ 説明の中で教職員の負担を軽減するという話があったが、仮に統廃合する場合、教職員の人数は維持されるのか。また、通常学級だけでなく、特別支援学級についてもこれまでと同等の体制を整えてもらえるという認識でよいのか。

→ まず、学級の編制や教職員の配置の基準は基本的に法律に基づくものとなります。その場合、統合により学級数が増加する場合、基本的には学級数に比例して教職員が配置されますので、御懸念されているような教職員の削減

等はありません。また、仮に統廃合等があった場合、それまで教えてもらっていた慣れ親しんだ先生にそのまま継続して担任等を担ってもらいたいなどの御希望もあるかと思しますので、その辺りも十分配慮する必要があるものと認識しています。

特別支援学級についても学級編制や教職員の配置の考え方は通常学級と同様に法律に基づくものとなりますので、学校が変わったことにより、教職員の配置人数の削減等が行われるものではありません。

（教育環境）

○ 小規模校と適正規模校と比較すると学力に差が出るといった具体的なエビデンスはあるのか。

→ いわゆる学力テストのようなもので、学校規模により差分があるといったデータは持ち合わせておりません。また、学力テストで測るような学力の向上を目的として学校規模適正化に取り組んでいるものではないかと認識しています。

○ 小規模な学校のメリット・デメリットについて、学校規模を適正化すると、デメリットが解消されるという考え方になっていると思うが、世の中が変化していく中で、部活の在り方や教職員の働き方なども変わっていくものだと思う。この取組は、従前の状態を前提として取組を進めていく考えになっているが、この前提自体を見直して、少人数化により部活動の設置が難しいのであれば、少人数化した中で実施可能な部活動を前提に、部活動の在り方を検討していけばよいのではないかと認識しています。

→ 御質問をいただいたとおりであると認識しています。現在、教育環境は大きく変化しており、その変化に応じた取組が必要であると認識しています。本市でも社会環境の変化に応じて、例えば部活動では、部員数が少ない学校同士で合同チームを設置したり、来年度からは部活動の地域移行についても本格的に検討を開始する予定です。また、教育現場でもICTを活用した学習環境の向上などにも積極的に取り組んでいるところです。先ほど少し触れさせていただきましたが、『市教育振興基本計画』に基づく多面的な取組によりこれらの課題を克服するものであり、学校規模適正化の取組のみで説明資料に記載したデメリットをすべて解消できるものとは考えておりません。

（通学関係）

○ 適正配置の方策で公共交通機関などのバスの利用を認めると記載があったが、その場合の費用負担はどうなるのか。

→ 通学負担軽減策実施に伴う費用負担の在り方については、現時点で具体的

な考えとして定まっているものはありませんが、学校規模適正化の結果、通学距離が長くなり、通学負担軽減策の導入が必要となる場合については、一定程度、市での負担を考えていく必要があるものと認識しています。詳しい内容については、今後検討を進めていく中でお示ししていきたいと考えています。

（その他）

- 取組を進める中で、本事業に携わる教育委員会の職員が変更になることはあるのか。こういった取組は市と住民が顔を合わせて意見交換する中で信頼関係を構築しながら歩み寄っていくものだと思うので、同じ職員が担当として残るのか気になる。
- 本市でも人事異動の制度がありますので、今後もずっと同じ職員が担当させていただけるかの確約はできませんが、本日も含め、皆様からいただいた御意見は、記録として残し、共有できるようにしていきます。また、仮に担当職員が代わる場合についても、引き継ぎの際には、記録だけでなく、実際の肌感覚等も含め引き継ぐよう努め、皆様からの信頼を損なうことがないよう取り組んでいきます。

【意見】

（取組の考え方・進め方・スケジュール）

- 今回の取組の効果として、教職員の負担軽減というものが挙げられているが、学校規模はあまり関係ないのではないかと。現在もPTAとして様々な取組を行っていて、これまで教職員が行っていた仕事を地域でフォローする活動を進めているところであり、どちらかというとそのような取組の方が効果があるのではないかと。学校を統廃合してしまうと、環境が変わって地域の人に参加しにくくなってしまわないかと懸念があるので、その辺は考慮しながら取り組んでもらいたい。
- 統廃合にもメリット・デメリットがあると思うが、子どもたちのことを考えると、小学校6年間で1学級で過ごすより、クラス替えがあつて、色々な人と交流があつた方が子どものためにはいいのではないかと。そう考えると、学校の統合という形に進んでいった方が、個人的にはいいのかなと思う。
その場合、どの学校に統合するのかという話になると思うが、位置的には荻野小学校が良いのではないかと。
そうしたときに残った学校をどうするのかを考える必要があるが、上荻野小学校は山や自然が多いので、七沢自然ふれあいセンターのように活用する

ことも考えてよいのではないかとと思う。

また、統廃合に当たっては、地域内を安全に移動できることが重要になるので道路などのインフラ整備も併せて実施してもらいたい。

（通学関係）

- 荻野地区は南北に長い地形になるため、仮に統廃合したと仮定すると、先ほど説明のあった通学距離・時間の上限に近い時間を掛けて通学する必要がある。その場合、小学校低学年が重いランドセルを背負って、自動車がたくさん通る中を通学するのは厳しいのではないか。

子どもの数が少なくなっていく中で、どうにかしなくてはいけないという気持ちは分かるが、この地区は過去にみはる野地区を1丁目と2丁目で通学区域を分けるなどの対応を行った経緯もあり、今度は統合するのかということになると住民感情としては複雑なものがある。

取組を進めるに当たっては、地域住民の意見をよく聞いて、早急に結論を出さないようお願いしたい。

- 仮に統廃合することになった場合、先ほどの通学距離・時間の上限について、小学校低学年で、重いランドセルを背負ってその距離を歩くのは難しいのではないか。方策に位置付けているスクールバスの運行など、児童が安全に学校に通える環境の整備を第一に考えてもらいたい。

【意見提出用紙による意見等】

（取組の考え方・進め方・スケジュール）

- △ 現時点で、上荻野小学校が統合される確率はどのくらいあるのか知りたい。私の考えでは、ほぼ90%統合されると思っている。
- △ 児童数が減っているなので、統廃合も仕方がないと思っている。過去には、小学校は4クラスあったが今は1～2クラスずつしかない。みはる野やまつかげ台から荻野小学校なら通えるが、上荻野の方から歩く子たちは、遠くて気の毒である。（バス通学も負担が大きい）。
- △ 荻野地区の児童数の減少を考えると統廃合はやむを得ないかと思う。小学校3校から1校に統合となると仮定した場合、既存の校舎を利用するのか。新たに用地を確保し新築するのか。既存の学校を利用するとすると、どの学校を新学校としてスタートするのか。
児童の通学距離や中学校との関わり方を考えると荻野小学校が良いかと思

うが、「校庭の広さ」や「保護者の車での送迎や学校終わりからの塾や習い事への車による送迎に伴う近隣への路上駐車や渋滞」が課題として考えられる。

どの学校になっても送迎用のロータリーや駐車スペースが必要になると思うが、上荻野小学校は道路が行き止まりのため狭いところで切り返しは危険な状態。荻野小学校は正門前の道が狭いため、路上駐車などが多くなると死角になり危険（ただ、校庭、敷地も新たに整備するには狭い）。鳶尾小学校は上荻野小学校の学区からは一番遠くなってしまうが、正門内のスペース、校庭の広さから車のスペース、児童の動線を分けて整備する事が可能。

スクールバスを利用することを仮定すると発着、待機スペースも必要となる。近隣住民の理解、協力を得るにはスクールバスも含めた車両への対応を検討する必要があると思う。

- △ 上荻野小学校は、優先的対象校の中でも、児童数が令和 12 年度は 163 人、令和 22 年度は 162 人であり、他の優先的対象と比べて少なくはなく、廃校の対象となることには反対する。（地域内の他小学校と比べても多い）。また、地域内の他小学校と比べて、上荻野小学校は建物の南棟・北棟ともに一番新しく、建物の更新時期が一番遅いことも理由の一つ（耐用年数をいかしてほしい）。